

鳥インフルエンザ、当センターでも厳戒態勢

当センターでは、京地どり種鶏の育成や、試験研究に供試する採卵鶏・肉用鶏をあわせて常時約 1,000 羽を飼育しています。

今年の冬は、鳥インフルエンザウイルスが国内で相次いで検出されており、当センターの養鶏施設でも対策を強化し、厳戒態勢で臨んでいます。

1 日 2 回の防鳥ネットの点検と飼育鶏の健康観察、定期的な消石灰散布による鶏舎周囲の消毒、鶏の飲水の塩素濃度測定を実施し、毎日の実施状況を記録することで全職員が取組みを点検できるようにしています。

渡り鳥が日本を離れ鳥インフルエンザの脅威がおさまる春まで、職員一丸となって対策を継続します。



鶏舎周囲は消石灰でしっかり消毒



鶏舎開口部の網と鶏舎全体を覆おう
ネットの併用で厳重に防鳥対策